

編集室から

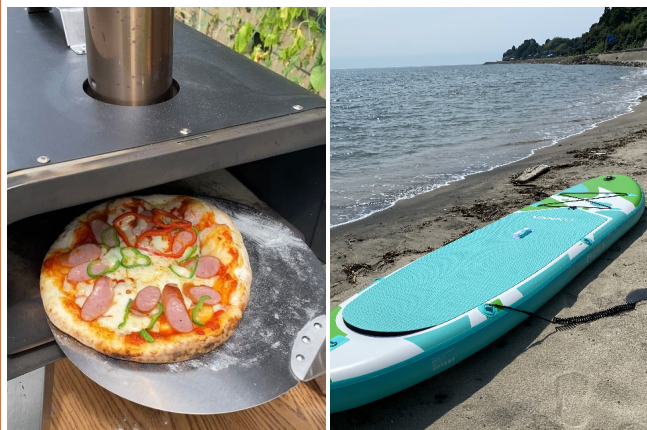
夏を控えて、ピザ窯を買いました。煙突を外し、脚をたたむと収納バッグに入り、持ち運びができます。可搬式のわりに本格的で、木質ペレットや、薪・炭などを燃料とでき、15分ほどで400度にまで庫内温度が上がります。

これだけの温度だと、一枚のピザを焼くのに60秒ほどしかかかりません。うっかりすると、生地が焦げてしまうので、手際よくペールを扱って、石板の上で回し焼く必要があります。合間には、庫内温度を維持するために、燃料を継ぎ足し、団扇で火を再度熾します。このリズム感が、合っているのでしょうか。 Teppan の焼き場担当に収まってしまいました。

キッチンでは、家内のお友達がワイワイ言いながら、強力なフードプロセッサで生地をこね、温度管理が正確な調理器具で発酵させ、具材を載せてまいります。時折、差し入れられるピザ片と冷えた麦酒が至福のときです。

もうひとつ、SUPも買いました。自宅前の浜は遠浅なので、プールのようなものですが、中々立てず、SDP状態です。それでも、波に揺られて、こちらも心身のリフレッシュに。

仕事柄、田舎暮らしを楽しむ体験プログラムの企画・開発をしていますが、灯台下暗しではないかと、反省しきりです。(は)



のと
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち
03-5537-3078
17:00~23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27
プラーザ銀座ビル地下1階
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2022/09
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217
Fax 076-233-7375
Email usric@neting.or.jp



2022/09
(株)アスリック
<http://www.neting.or.jp/usric>

長 月



和歌山県有田川町
古民家レストランにて
by hama

寄稿『先が見えない医療の現場』

サンポート高松クリニック 井垣 俊郎

新型コロナウイルスの第七波で医療がどうなっているか、その一部をお伝えします。私はJR高松駅から徒歩三分程のビル内で、生活習慣病専門のクリニックを開業しています。第七波の前までは、発熱や風邪症状の方が来られたら他の患者さんに接しないよう注意しながら空き部屋に入っていたதாகி診察していました。しかし感染拡大に伴って、受診希望の方が一気に増えてしまいました。当院は動線の分けようがなく、糖尿病をはじめとした重症化リスクの高い方々が定期で来院されています。中途半端が最も危険と考え、盆明けから感染症を疑われる方は心苦しいですが近隣の感染外来を紹介しています。処方だけでなく、診断の検査も必要だからです。ただ何処も手一杯で、受診を翌日に回されることも多々あります。

◎

当院は外来診療のみですが、通院できるということはコロナ感染があっても無症状の可能性は充分あるということです。全ての患者さんに対して濃厚接触にならないよう診察時間を制限し、緊急性のない医療行為は先送りにしています。我々のような個人クリニックでは、スタッフの誰が欠けても診療に支障が出ます。感染と濃厚接触を避けるため、自身の行動を自粛するだけでなく家族にも無言の圧力をかけてしまっています。

◎

頼まれて、中規模病院の当直を月に二回しています。元々は結核療養所で、今は筋萎縮性側索硬

化症(ALS)の方が県内で最も多く入院されています。当然、面会は規制されて院内は閑散としています。病棟の主役は看護師さんで、人工呼吸器の管理・体位変換と清拭・経管栄養の注入などなど若くなければ務まりません。その看護師さん達が、子供さんや知人からの感染や濃厚接触でポロポロ欠けています。出勤時の抗原検査が多すぎて、検査キットが底をついて確保に困るほどです。穴埋め勤務が続き、師長さん達は疲れ切っています。

◎

基幹病院は高度な医療を担う場なので、それだけ重症化リスクの高い方達が入院されています。その方達を守るため、外来を減らし救急の受け入を厳格にし緊急性のない手術は先送りにしています。それでも、院内クラスタの発生を防ぎきれずにいます。救急隊も大変です。受け入れ先が決まらず、じっと止まったままの救急車内で苦しんでいる患者さんと過ごす時間を想像してください。先日は濃厚接触者だった二十歳の男性が腹痛を訴え、結局県内は無理で橋を渡って倉敷まで行ったそうです。

その方は、ただの虫垂炎でした。医療だけでなく保育も介護も、弱い人と接する職業はみな、体も心も疲れています。



【プロフィール】

(いがき としお)金沢大学北潟寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とっても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松で又ク又クしています。

濱の起業塾 四十一『出口戦略⑤』

前号で、消費者のニーズとウォンツの違い、考え方についてご紹介した。

特産品・商品開発に携わっていると、六次化や、農商工連携という言葉聞く機会がある。

食品系の商品開発の場合、素材を生産するのが農。加工が製造業。販売を担うのが商であるが、消費者ウォンツに最も接しているのが、商であるため、商品の仕様を決めるのが、商の担当となり、製造業が仕入先となるので、時として厳しい対応となるし、その素材としての農は、さらに厳しい立場に置かれやすい。これではほんとうに良い商品ができとは限らず、消費者の立場としても好ましくはないだろう。

それらの悪習を断ち切り、「農業・製造業・商業が対等な立場で、連携しながらより良いものづくりを作ろう」という主旨だと理解している。そして、これら農・商・工のすべてを農家が担うのが六次化

の主旨だろう。六次化の成功例を伺うと、農・工出身の方ではなく、商業で成功された方が、ご縁で農家となっている例が多いように感じている。それは、やはりウォンツ把握のノウハウに起因しているのではないかと思う。

商品化の過程を見ると、素材・ペーストなどの一次加工・最終製品加工・商品化と工程が進む。それに伴って、各段階の出口は絞られ狭くなっていくが、付加価値は上がる。マスマーケティングしか知らないで、出口が絞られていくと、販売数量が小さくなることを恐れるあまり、素材寄りの広い出口しか視野に入れたくないという意志が働くかもしれない。

消費者のウォンツに気づいている人たちの意見を尊重できるかどうか、ポイントになる。

ここまでは、「素材・ものありき」での商品開発過程である。だが、この工程では突破できない場合が、増えてきている。この峠を越えるには、ストーリー展開の視点が求められる。

それぞれの所属組織における役割が異なっているのも、今の私のパラレルな働き方の特徴である。特に教育機関とDMOでは大きな差がある。それをPDCAサイクルに当てはめて比較していきたい。

非常勤講師先の教育機関では、前もって当該機関と合意したシラバスに沿って、毎週の授業を準備、実施した上で、生徒・受講生を評価する。

まず大きな計画(Plan)を最初の授業前に構想する。カリキュラムから規定され与えられた内容をベースに、具体的なシラバスを私が検討する。その結果が機関を通じて生徒・受講生に知らされる。

次に毎週の授業前に小さな計画(Plan)を準備し、授業を実施(Do)する。授業後にはミニレポートやリアクションペーパー等にて教育効果を計測(Check)し、その結果を次の授業に反映(Action)する。これらのサイクルはほぼ私に任される。

全ての授業が終わると、生徒・受講生および自身の授業について総合的な評価(Check)を行い、次期の授業の改善(Action)につなげる。これらについては私が行った上で機関に報告し、必要に応じてフィードバックがもたらされる。

以上が、各科目で半期あるいは通期で繰り返し行われていくことになる。すなわち非常勤講師先の教育機関では、プレイヤーとしての役割に重きを置きつつ、限定的なマネージャーとしても振る舞うことが求められる。

一方で非常勤役員先のDMOでは、プレイヤーとしての役割は薄く、ほぼマネージングに集中することが求められる。

業務の大半が、社内外における会議や打ち合わせおよびその準備で占められる。そこでは方針や交渉についての判断や決断を行い(Plan)、そして業務の進捗や業績について評価(Check)を交えつつ改善の方向性(Action)を提示する。実行(Do)に大きく関わることはない。P・C・Aについても部下が原案を作成し、私はそれに口出しするだけである。

マネージャーとしての役割は、以前、コンサル会社で役員をしていた時期に経験済みではある。しかしながらプレイヤーとしての役割がここまで削ぎ落とされる経験は初めてだ。基本的に私は、性格上でも資質上でも、プレイヤーが好きでありマネージャーとしての適性は欠けているという自覚がある。求められる役割がパラレルとなり、中でもマネージャーに特化すべき時間帯は、私にとって手探りでチャレンジングなものとなっている。

(前号からつづき)

2.自分だけのオリジナルの世界を作り上げるクリエイティブスキル

マインクラフトではボクセルと呼ばれるブロックを積み上げることで様々なモノを表現することが出来ます。ボクセルを積み上げてモノを表現する「遊び」は世界中のユーザーに親しまれており、それらは作品として公開されることもあります。

また、前述したように英国の芸術団体Taleが絵画をテーマにした世界を構築したり、歴史的建造物が再現されたりと、多彩な活用方法が考えられています。想像したものを実際に作り上げていく遊びは、ユーザーのクリエイティブな感性を大いに刺激し、発表する場があることは「ものづくり」の楽しさを覚えるきっかけになります。ブロックを使って「何か」を表現することは、如何にしてそれを実現していくかを考えるプロセスも養えます。

3.テクノロジーの基礎を学べる

マインクラフトにはやや上級者的な要素として、レッドストーン回路と呼ばれる機械装置を作るためのシステムが用意されています。このレッドストーン回路では、スイッチを用いたON/OFF機能付きの照明といった簡単な装置からエレベーター的な昇降装置、果ては巨大ロボットといったものまで様々な装置を作ることが可能です。現代的なテクノロジーの基礎を学ぶことが出来ます。遊びを通じてコンピューターサイエンスを学び、論理的思考を鍛える効果があると言われています。

私自身が小学生1年生の息子が遊んでいる姿を見て感じるのが求める回答にたどりつくまでの『情報検索能力』がすごいなということです。マインクラフト上で自分では解決できない課題にぶち当たった時に、PCを開き『今の状態』、『何が問題か』『どう解決したいか』を打ち込み、日本全国のマインクラフトユーザーの知見を集めてくる姿には驚きしかありません。ワードの選択肢によっては求める解が出てこないという経験を得て、どう最適な言葉を選ぶかという能力が養成されていると思います。

昔僕が親から毎日のように浴びせられた『ゲームばかりしていると、ろくな大人にならないわよ』とは、もう言えないようです。(了)

『相模の国から ～大魔神のたび～ 』 福岡県築上町のこと その1 茨城県境町 参与 溝口 久

今年の4月から境町参与に加え、福岡県築上町でも仕事をしている。この町には参与職は無いので「地域づくりアドバイザー」というダサめの肩書をいただき毎月3日間を基本に出勤している。この他に神奈川県松田町では「官民連携担当」と名刺を頂戴し、こちらにも月最低3日は行くことになっている。

境町と松田町は静岡県小山町にいた時からの繋がりがあるから皆もわかるのだが、築上町は違う。

説明を結構求められる。自分から売り込むことはしない、仕事を求めることはない、あくまでもオファーがあれば応じるスタイルを静岡県を早期退職した時から貫いている。

なぜ、その築上町からオファーがあるのに答えなくてはいけない。時を遡ること平成9年度、由布院観光総合事務所事務局長を務めていた時に熊本県小国町でグリーンツーリズム業の創業を推進するために「九州ツーリズム大学」が開校された。そこの受講生として同窓になったのが築上町合併前の椎田町の人達だった。先進的な町長だった田原さんを筆頭に何人かで参加されていた。その時の出会いからおひとり信田さんとずっと付き合い続けることになった。九州に行くときには空港に迎えに来てくれ足となってくれている。静岡県にもたびたび足を運んでくれた。その彼が「築上町のまちづくりに溝口を」と町長に訴え、「ならば一度来てもらおう」と声が掛かり、3月に出向き小山町で手掛けた仕事と築上町のアグリパークの官民連携による再生手法案を職員を前にプレゼンした。これを機に4月から毎月出向くことになった。

ここで築上町のことを紹介しよう。

福岡県の東部で北九州港から20km程で大分県との県境に近い。旧豊前国に属する。南北に広い町で行橋市と豊前市の中間に位置し、南は大分県と接している。北部は京都(みやこ)平野が広がり、JR日豊本線の築城(ついき)駅前と椎田駅前には市街地があり、郊外には田園が広がる。北は周防灘(瀬戸内海)に面し、南部は筑紫山地の山々が連なる。南部地域には谷が多く、その谷の扇状地ごとに町が形成されている。その先に広がる周防灘は500m沖まで干潟が現れ「しいだアサリ」の産地として名が知られている。近年収量が減少、現在斬新な養殖に取り組んでいる。農産物は水稻、果実、特にヤーコン、菊芋の栽培が珍しい。

そして何より有名なのは「航空自衛隊築城基地」の存在だ。航空祭には3~4万人もの人が来る。この日は基地の中にも入ることができる。今年は11月27日だ。普段は離発着を間近に見ることができる「松原展望台広場」がある。

私の一番のお気に入りには旧蔵内邸だ。

静岡県小山町に(株)富士紡の初代社長和田豊治の邸宅「豊門会館」があり、これを大規模修繕＋一部改造した仕事に関わった。明治39年の建築で和洋館併置型で、雁行させた和館とサンルームを持つ洋館で構成されている。和館は戦前の高級住宅に見られる梅普請だ。BS朝日の「百年の名家」でも紹介され、最高の建築だと自慢げに紹介していた。

ところが、この旧蔵内邸を見たときに衝撃が走った。この田舎町の田園風景の中に鳥居と石積みの参道、その先には神社、神社前にもある鳥居前を左に折れると現れる門。門から中に入ると年月を重ねた仕立物のカイズカイズキの先に入母屋屋根が二重に重なる大玄関のある大邸宅が現れる。屋根のコーナーの軒先が反り上がっている姿が優美だ。屋根は金属板で葺かれているが、もともとは寝殿風の檜皮葺、それに金属板を被せている。本来の神殿風に軽やかなデザインは後退してしまっているせいか迫力のある姿になっている。屋根材は銅板ではと思うのだが、緑青は出ておらず黒々としている。

この建物は明治時代から昭和前期まで福岡県筑豊地方を中心に炭鉱を所有し、大分県などにも錫や金の鉱山を経営した蔵内一族の本家住宅である。

邸宅は明治39年頃に主屋と応接間棟および庭園が造営され、大正5年の蔵内鉱業(株)設立と同時に大玄関・茶室・大広間などが池庭に面して大増築されている。この時に隣接する貴船神社と鳥居・参道・石橋なども地域一体型で整備、さらに邸から西に200mほど離れた丘陵地斜面にある一族の墓所には蔵内三代の銅像広場が建造された。銅像は太平洋戦争時に抛出され消失し、今はエジプト風デザインの台座のみ残っている。(つづく)

